

民話を用いた地域空間のイメージ評価に関する研究

京都大学工学部 正 員 佐佐木 綱
日本総合研究所 正 員 小長井由隆
京都大学大学院 学生員 竹林 幹雄
京都大学工学部 学生員 ○逢坂 謙志

1. はじめに

本研究は、個性的な町づくりを行うための支援情報を得るため、地域特性を有していると考えられる固有の民話（京都府加佐郡大江町の「酒呑童子」）に着目して、それを刺激に受けて変化するイメージの抽出を心理実験によって行った。本研究が対象とする民話イメージの側面は、言語による連想イメージと風景イメージの二つである。また、民話イメージを反映した計画のありかたについて考察した。

2. 民話イメージの抽出

(1) 心理実験の概要

民話を地域計画に利用するには、民話の中に演出されている民話イメージの特性を知らなければならない。これには、民話が読者に与える心理上の影響を把握することが必要である。そこで、民話から抽出した「刺激語」を用いた制限連想実験を行った。これは、民話によって受けた心理上の影響が連想パターンの読書前後の変化となって現れるものと考えられるからである。また民話を読むことで、実験者が想起した風景イメージにあう風景を現地で撮影し「刺激写真」として提示し、被験者が実際に想起したイメージとの適合性と風景に対する評価基準を知るためにSD法を行った。

(2) 分析手法の概要

①言語：連想の過程を単純マルコフ過程と仮定した。刺激語からの連想の遷移状態を確率で表して確率行列を作り、この行列から得られる極限の状態確率を連想パターンの反映値であるとする。次に各刺激語の極限の状態確率の読書前後におけ

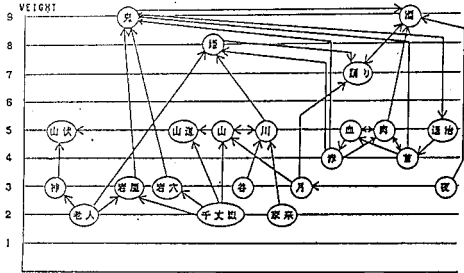


図-1 連想階層構造（事前）

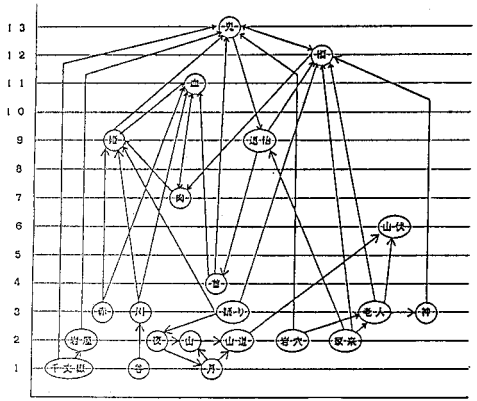


図-2 連想階層構造（事後）

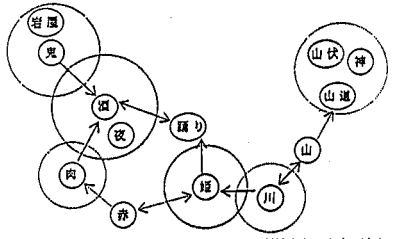


図-3 クラスター間の関係（事前）

る変化を比較分析することにより、民話の影響を受けた言葉を特定することができる。この極限の状態確率(%)のことをイメージウエイトと定義し、この変化の大きな語を抽出することで、民話イメージの特性を把握する。

②風景：刺激写真に対して、民話を読んで想起したイメージとの適合度(頻度による荷重平均値)の高い写真に共通する景観要素を抽出し、SD法によって得た意味空間上での分布からその景観要素の情緒的意味を把握する。

(3) 分析結果

①言語：連想の関係図とイメージウエイトの計算結果を併用することにより読書の前後において制限連想用語の構成するイメージ構造を図-1、図-2のように表示することができる。さらに、クラスタリングによって、これらの図は、図-3、図-4の様な関係に帰着する。

②風景：SD法により3因子が抽出でき、各刺激写真の意味空間上での様子は図-5のようである。

民話によって影響を受けた、典型的な心理状態は言語実験においては連想構造階層図のクラスターにより、また、風景イメージ抽出実験では景観要素とその情緒的意味によってそれぞれ記述させることができた。これら両者には、表-1に示すような対応関係があると考えられ連想構造階層図のクラスターの特性を景観要素とそれらの情緒的意味で表現することもできる。

3. 計画への応用

地域計画への応用については、町の中を民話の場面別に分け、各場面に対応するイメージでその地域内を整備し、さらに物語の流れに沿ったように配置すれば、街全体が統一感のある連続的空間となるものと考えられる。

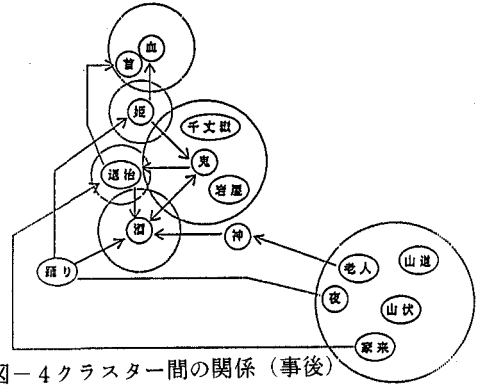


図-4 クラスター間の関係 (事後)

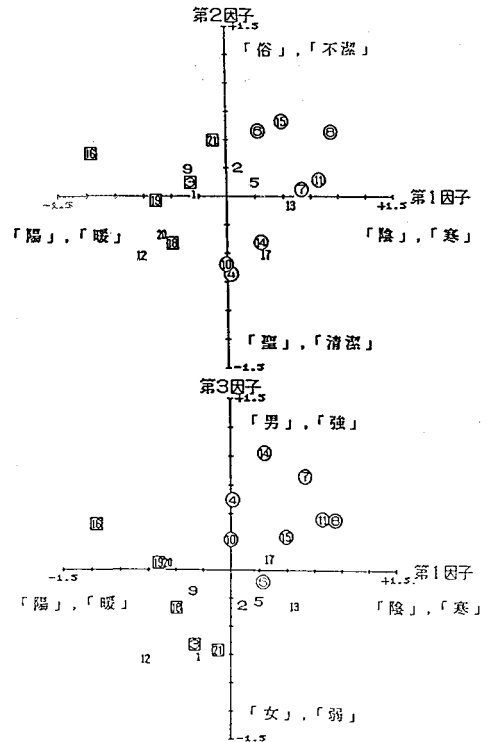


図-5 各刺激写真の意味空間上での様子

表-1

景観要素	情緒的意味	制限連想用語
川	陰・寒-俗・不潔	(川)(谷)→「血」「鬼」
山	聖・清潔-男・強	(千丈獄)→「鬼」 (山)→「山伏」
山道	陰・寒-男・強	(岩穴)→「山伏」
神社	聖・清潔-男・強	(神)→「酒」